

IV. 鹿児島大学同窓会連合会関東支部設立趣意書

母校鹿児島大学は昭和 24 年に発足し、現在、8 学部 10 大学院研究科からなり、約 10,000 名の学部生と約 2,000 名の大学院生ならびに約 2,300 名の教職員が在籍する総合大学として規模の発展をみました。

鹿児島大学は九州の南隅にありますが、わが国近代化の先駆けを推進した多くの人材を輩出した藩校造士館の名跡をつぎ、地域の文化と伝統を受け継ぎ、総合大学として社会に有意な人材を輩出し、幾多の学術研究を通して地域社会と国際社会に貢献し、さらにはアジアの多くの留学生を受け入れることにより国際社会に貢献を果たしてきたことなど鹿児島大学に対し私たち関東在住の同窓生としては大いに誇りとするところであります。

平成 16 年 4 月から実施された国立大学の法人化により、鹿児島大学も「国立大学法人鹿児島大学」となり、権限と責任が大学に移り、評価制度の下に大学の英知を生かした経営と運営交付金による財政運営を求められる仕組みになりました。運営交付金は、5 年間で 5 % の削減計画（地方国立大学 20 校分の費用に相当するといわれている）が進行しています。更に少子化と財政難を背景に国立大学の統廃合が進められています。鹿児島大学も「鹿児島大学憲章」の制定や組織面の強化など生き残りをかけた改革に着手しています。

このように厳しい環境下、平成 17 年 4 月、鹿児島において大学の要請もあり、8 学部の同窓会の連合組織として「鹿児島大学同窓会連合会」が発足しました。

関東は鹿児島から遙かな地ですが、そこには数多くの同窓生がおり、海外を含めあらゆる分野で大いに活躍しています。その力を結集すべく私たち関東在住の鹿児島大学同窓生および東京七高会（第七高等学校造士館関東地区の同窓会）会員有志等関係者がここに集い「鹿児島大学同窓会連合会関東支部」を結成することにいたしました。

私たちがここに関東支部を結成するのは、まず鹿児島の歴史と風土の中で倫理性の高い困難に果敢に立ち向かう国際社会で活躍しうる人材を育成し、「稲盛アカデミー」に象徴されるような産学官連携により産業の振興・環境保全など地域社会と人類社会の発展と向上に貢献することなど、特色ある大学づくりに挑戦している母校鹿児島大学に向けて、情報と価値が集積している東京から物心両面の支援を積極的に行うためであります。

第二に同窓会連合会関東支部に結集することにより、関東における「鹿大同窓生共同体」を構築し、ここに集う一人一人の同窓生がコミュニティーの輪をさらに大きくし、活躍の場の「広がり」をもつことを期待するものです。このことにより、関東地区における各同窓会の活性化にも必ず繋がるものと信じるものであります。鹿児島大学同窓会連合会関東支部への結集にあたり、ケネディー米国元大統領の言葉を借りて、私たちは「わが同窓諸氏よ。いまや鹿児島大学があなたのために何をしてくれたかを問うのではなく、鹿児島大学の発展と学術の振興、そして後輩の育成に貢献するために何ができるかを、共に問い、共に行動しようではないか」という「言葉」と、かの地は遙かに隔つとも、「母校鹿大」に寄せる桜島の火より「熱い思い」を共有することをここに確認します。